

国語科 中学校第一学年 ⑤ 【活用問題】

図表等を用いた文章を読む (環境問題について考える)	組番	氏名

小林さんは、総合的な学習の時間で環境問題について調べ、次のような資料1「レポート」をまとめました。これを読んで後の問い合わせに答えなさい。

資料1 「レポート」

近年、環境問題への意識が高まり、ソーラーパネルを設置した家やエコカーを使用している人も増えてきました。そこで、このような個人の取組だけでなく、環境問題に社会全体で継続的に取り組む活動に着目しました。

私たちは毎日の暮らしの中で、便利さを求めるあまり、たくさんものを作つては使い、使つてはたくさん捨てる「使い捨て」型の生活になります。日本のごみ排出量は、平成十二年度は年間五千四百八十三万トン、平成十八年度は年間五千二百四万トン、平成二十三年度は年間四千五百三十九万トンと、だんだんごみの量は減つてきていますが、それでも多くのごみが今も捨てられています。計算してみると日本人一人が九百七十五グラム、宮崎県民一人が九百八十グラムのごみを毎日捨てていることになります。

家庭やオフィスから出されたごみは、市町村などによつて収集され、市町村の処理施設に運び込まれます。平成二十三年度の宮崎県の実績でみると、ごみ処理のうち、焼却されているごみは七十一・七%、そのまま最終処分場に埋め立てられているのは、〇・六%となっています。リサイクル率は、十九・一%と全国平均をやや下回っています。焼却されている可燃ごみのうち、水分（生ごみなど）を除く四十七%、布類三%、プラスチック類十九%など、まだまだ資源物としてリサイクルできるものがたくさんあります。

宮崎県の最終処分場は、あと二十年程度でいっぱいになるといわれています。ごみの量が今より増えてしまうと焼却するごみの量が多くなり、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の発生量も増えて環境に悪影響をおよぼすと言われています。また、処理するために石油などエネルギー資源もさらに使つてします。

そこで、私たちは、社会全体で、ごみを出さない、作らない生活を送り、ルールを守つてきちんと分別して地球にやさしい生活を心がけることが大切です。今までごみとして捨ててしまつたものを、これからは「資源」として繰り返し使つていい、より多くの人が継続して環境問題に取り組んでいくためにも「使い捨て型社会」から「循環型社会」に変えていかなければなりません。一人一人の取組だけでなく、社会全体で取り組むことが効果的かつ継続的に環境問題に取り組むことにつながると思います。「循環型社会」に向け、ごみを減らし、限りある資源を大切にする国的な取組として、三つの頭文字の『R』をとつて「3R」を行つています。宮崎県では「3R」にさらに【リフューズ】を加えた「4R」を推進しています。【リフューズ】とは、ごみになるものを断ることです。これは不要なもの、余計なものは「りりません」と断つたり、買わなかつたりすることです、ごみを出さないための大切な第一歩です。

ぜひ、皆さんも、買い物にマイバッグを持参し、レジ袋を断つたり、詰め替え用のシャンプーを選んだり、日常のちょっとした心がけから実践できる、地球にやさしいライフスタイルを目指していきましょう。

4  
「4R」

- 1 リフューズ (Refuse) == ごみになるものを断る。
  - ・本当に必要か考えて買う。・マイバッグを持参し、レジ袋を断る。
- 2 リデュース (Reduce)
  - ・使い捨て商品よりも詰め替え商品を選ぶ。・長持ちする商品を選ぶ。
- 3 リユース (Reuse) == 繰り返し使う。
  - ・壊れたものは修理して長く使う。・不要になつたものを工夫して使う。
- 4 リサイクル (Recycle) == 再生利用する。
  - ・分別基準に従つてごみを出す。・生ごみは有機堆肥等にする。

(一) 小林さんがまとめたりサイクルやごみ減量化の必要性についてのレポートに表題をつけるとしたら、どのような表題がよいか。「「」に向けた取組」に続く形で文章中から五字で書き抜きなさい。


に向けた取組

(二) あなたは学級で環境問題に対する取組をすすめるため、小林さんのレポートの要旨をグループの友達と二人で分担して二つの視点からまとめ、紹介することにしました。次の条件にしたがつて書きなさい。

- ・ 次の二つの視点のうち、どちらか一つの視点を選択すること。
  - ① ごみ減量化の現状についての視点
  - ② 課題解決のため今後取り組んでいくことについての視点
- ・ 八十字以上、百字以内でまとめて書くこと。

選んだ視点番号

--

